令和７年４月２６日（土）　東奥日報

目安箱に入っていた町民からの投書を読み上げる三戸高校クリエイティブ部の生徒

「目安箱」に町民意見30件

三戸高クリエイティブ部 解決策考案へ

三戸

三戸町の三戸高校クリエイティブ部は、町民からの困りごとを募集するため町内8カ所に設置していた目安箱「入れてけろ」を回収し16日、開封作業を行った。町民から約30件のさまざまな意見が寄せられ、生徒たちがジャンル別に分類した。生徒たちは今後、それぞれの意見に対する解決策を考え、実行に移していく。

目安箱の設置は、地域連携プロジェクトの一環として初めて実施した。町名産のリンゴの木や国史跡・三戸城跡を象徴するお城、神社のさい銭箱をイメージしたものなど、ユニークなデザインの目安箱を制作。1月下旬から町内の公共施設や飲食店など8カ所に順次設置した。

この日は同部の生徒約20人が出席。生徒たちが目安箱の中から投書を取り出し、1件ずつ読み上げた。「路線バスの本数が少ない」「川沿いのガードレール改修を」「空き店舗の前が雪片付けされておらず、歩行者の道を確保してほしい」など公共交通やインフラに関する具体的な要望のほか、「子どもの遊び場が少ない」「全世代が集える場所がほしい」など地域の活性化を求める意見も多くあった。

開封作業を見守った沼沢修二町長は「幅広い世代から意見が集まった。道路の除雪やごみの清掃など、できるものはすぐにでも取りかかりたい」と述べた。

三戸高校魅力化コーディネーターの村田修子さんは「部活動や授業で生徒たちが町民の意見に対する解決策のアイデアを考え、行政と一緒になって解決していきたい」と話した。

（藤田幸雄）